

公民館を訪ねて

偉人がつなぐ地域の輪「鶉」

鶉公民館

1 鶉地区の概要

鶉地区は、福井市北西部の九頭竜川左岸後背湿地に位置し、稲作中心の農業が盛んである。近年は小規模農業から脱却し、圃場整備事業を強力に推進して大規模営農方式による米作りが主流になっている。また、ハウス栽培も盛んで、多種多様な野菜や果物を市場に出荷し新たな農業を目指して取り組んでいる。

九頭竜川は、古くから「崩れ川」「暴れ川」などと呼ばれ、氾濫や水害を繰り返してきたが、地元波寄町出身の偉大な政治家・杉田定一（鶉山[じゅんざん]）の尽力により長い年月をかけて「明治の大改修」が行われた。これにより、地域の農業が振興し、人々の安定した生活がもたらされることとなった。

杉田翁の功績は今日の鶉地区の礎となっており、鶉山に学び鶉山を愛する精神は今も生き続けている。

すべての地区民が鶉山の遺徳を偲び、地区の夏祭り事業をはじめ公民館の様々な事業の中で、崇高な碩学の精神を称えている。昭和60年には、



杉田鶉山遺徳顕彰会によって公民館前庭に銅像が建てられている。平成31年1月1日現在、人口は3,046人、世帯数は1,010戸となっている。

2 繋がりと交流を大切にされた地区事業

(1) 北海道上砂川町との交流

明治30年、旧鶉村出身の山内甚之助は開拓の地を求めて北海道に入った。明治31年に北海道長官となった杉田定一の働きかけにより正式に現在の北海道上砂川町が開拓地として認められることとなり、山内氏はふるさと鶉を偲び、この地を鶉村と名付け開拓の祖となった。今でも「鶉」の名がつく場所があらこちらに残っている。このことがきっかけとなり、「全国まちづくり交流大会」が福井で開催された平成16年から、鶉地区と上砂川町との正式な交流が始まった。

平成24年からは小学生の相互交流、平成27年からは上砂川中学校が修学旅行で福井を訪れるなど、行政や地区同士の交流から、次世代を継ぐ子どもたち同士の交流へと発展してきた。

今年度も、5月に上砂川中学校の生徒が修学旅行で鶉地区を訪れ、公民館前での歓迎式のあと地元の川西中学校生徒と交流会を行い、その後地区内を巡った。

また、夏休みには、上砂川中央小学校の児童6名が鶉地区を訪れ、鶉小学校児童との交流会や地区巡り、里づくり委員の引率による県内観光などを行った。

この事業は、子どもたちにとって、郷土の歴史を学び、郷土のよさを再認識するよい機会となっている。



(2) 鶉の里夏祭り

平成9年から公民館主催で始まった夏祭り、毎年8月に開催されている。平成20年からは、祭りのタイトルをこれまでの「鶉山まつり」から「鶉の里夏祭り」と改め、実行委員会によって継続されている。

全地区民参加で作る越前和紙を使った七夕飾りが会場を盛り上げ、子どもからお年寄りまでこぞって参加する地区の一大行事となっている。

今年度は、猛暑の中、8月11日(土)に開催され、園児による和太鼓の演奏や、鶉山音頭、鶉山ヨサコイバ



ージョンなどが賑やかに繰り広げられた。また、会場には各種団体の模擬店テントが多数連なり、地区民の交流の場となっていた。

(3) おかえりイルミネーション

布施田町にある川西橋の前に、鶉の里づくり委員会と青年会(鶉和[やわぎ]会)が中心となって設置している。今年度で12年目となり、地区ではすっかり冬の名物となっている。

仕事から帰ってくる人や、年末年始に帰省する人を温かく出迎えようと、約4,000個のLED電球を使って、「おかえりうずら」と書かれた看板と、高さ約6mのクリスマスツリーを設置している。今年は11月18日に、鶉小学校児童や地域の人々が多数参加して点灯式が行われ、参加者たちは、温かく光るツリーをバックに記念撮影を楽しんでいた。



3 特色ある教育事業

(1) 「おもてなし膳」を作ろう

地区内に住む60～80才の女性グループ「恋華会」(れんげかい・12名)が、月1回のペースで「おもてなし膳」と名付けた料理作りに取り組んでいる。

かわり巻き寿司、採れたて野菜の夏御膳、和食膳、ギョーザ&中華風春雨サラダ、おせちなど、メンバーが持ち寄った材料を使ってアイデアを出し合いながら数多くのメニューに挑戦してきた。今後は、自分たちで味わうだけでなく、レシピを蓄積して地区の行事などでも活用していきたいと考えている。



(2) みんなで歩こう！「ふるさとウォーク」

地区民の健康増進と地区巡りを兼ねて、平成27年度から年1回、年ごとにコースを変えて実施している。

平成30年9月16日に、工事開始から7年の月日を経て新しい布施田橋が開通したことから、今年度のふるさとウォークは「布施田橋をたのしもう」と名付けて、新

旧の布施田橋を歩いて渡るイベントを企画した。

秋晴れに恵まれた9月23日、35名の参加者は、メッセージが書かれた風船を手に、まず新しい橋を渡り、続いて古い橋へ。車で何度も通った橋を懐かしむとともに、60年間お世話になった橋への感謝の思いを込めて風船を飛ばした。そして、古い橋の路面に感謝の気持ちを書き込んだ。



4 豊かな自然を守ろう！～コウノトリの飛来～

平成30年6月、木下町の田んぼに2羽のコウノトリが22日間留まっていた。これは、5月に越前市で抱卵したペア(残念ながら孵化には至らず)だということが足輪の調査で分かった。平成21年度に初めて飛来を確認して以来、地区内の田んぼには毎年のようにコウノトリが飛来し、長期間留まることも増えている。

地区住民は鶉の自然のすばらしさを確信するとともに、今後

も環境保護に努め、より住みやすく内外に誇れる里にしていきたいと考えている。



5 終わりに

鶉地区の歴史は古く、名所旧跡が多く残っている。地区住民と共にそれを掘り起こしながら新しい宝も発見・創造し、さらに魅力ある里づくりに取り組んでいきたい。子どもから高齢者まですべての人が「鶉を誇りに思う」そんな地区を目指している。

公民館を拠点に、様々な行事に取り組まれている地区の皆さんの姿から、郷土の偉人・杉田定一への感謝の気持ちや、その功績を後世に伝えようという熱い思いが感じられます。

今後も伝統が受け継がれ、豊かな自然の中で鶉地区がますます発展されますことをお祈りいたします。